

### 第3回 中国圏広域地方計画協議会 議事要旨

■日時：平成27年3月19日（木）10:30～12:00

■場所：リーガロイヤルホテル広島 4階ロイヤルホール

#### 議題

- (1) 中国圏広域地方計画協議会規約について
- (2) 中国圏広域地方計画の改定について
- (3) 新たな中国圏広域地方計画骨子（案）について
- (4) その他

#### 1. 開会

##### （石井国土交通審議官より挨拶）

本日は朝早くからご参集いただき、ありがとうございます。中国圏広域地方計画の開催にあたり、国土交通省を代表してひと言ご挨拶申し上げます。ご出席の各団体の皆様には平素から国土政策の推進にあたり、何かとご協力を賜っており、この場を借りてまず心からお礼を申し上げたいと思います。また今回は中国圏のこれからの在り方をどうするかという、広域地方計画の推進にご尽力いただけるということで、重ねてお礼を申し上げる次第です。我が国は戦後順調に発展してきました。オイルショックその他色々ありましたが、比較的順調に豊かになってきたと言えます。しかし中国地方はその先端を行っているところがありますが、人口減少、あるいは広島で大変強い雨の中で地滑りが起きましたが、大きな災害が最近は起こるようになっていきました。国を取り巻く、特に国土を取り巻く状況は大変大きく変化してきています。このような状況を踏まえて昨年7月に、2050年を見据えて国土をどうつくっていくかという、「グランドデザイン 2050～対流促進型国土の形成～」という、国土づくりの哲学にあたるものを国土交通省として発表しました。この哲学を踏まえながら、これから具体的な国土づくりの指針、今後10年間の国土づくりの指針である、国土形成計画の見直しに着手していくというところなんです。これからの10年というと、当然5年後の東京オリンピック、それからポストオリンピックの5年という、この10年です。この時期をどのように乗り切っていくかということが、これからの我が国の国土、あるいは経済社会の命運を決するという、極めて大切な時期になってきます。この大切な計画を、各地方ブロックでそれぞれの自治体の方、あるいは経済団体と国とが一緒になって作り上げていくということが特徴となっています。これから地方の特色、あるいは資源を最大限に活かして、個性ある都市と都市の対流を起こして、地方創生とも連携しながら、自立的に発展していける中国圏の将来像を書いていただくことを期待しています。国土交通省としてもご出席の皆様とともに、より具体的な中国圏の未来を展望した計画づくりに努力していくとともに、その実現に向け、ハードだけでなくソフトも含めて推進を図っていく所存です。最後に、本日ご出席の皆様方のますますのご健勝と中国圏の一層の発展を祈念して、ご挨拶とさせていただきます。

事務局より協議会構成員32名のうち23名の出席報告及び中国圏広域地方計画協議会規約第5条第1項により本協議会が成立することの報告

## 2. 議題について

### (1) 中国圏広域地方計画協議会規約について

事務局より中国圏広域地方計画協議会規約の資料説明

互選により中国経済連合会 山下会長を協議会会長に選任

#### (中国経済連合会 山下会長より挨拶)

皆様からご推挙いただき、会長という大役に就任し、重責を感じておりますが、大変光栄に存じています。よろしくお願いいたします。本日の主要議題の中国圏広域地方計画については、平成 27 年度中に新たな計画を策定することとされており、平成 26 年度内に骨子を固めるため、本日の協議会が開催されるものです。これまで 2 回の幹事会が開催されるとともに、学識者等会議や有識者ヒアリングなど各界の皆様のご意見をいただき、試案の検討が進められたと伺っております。新たな計画の策定に向け、本格的な協議をスタートさせることになるので、ぜひ皆様から忌憚のないご意見をいただき、幅広い検討を進めてまいりたいと存じます。中国地域は全国に先駆けて人口減少が進んでおり、課題先進地域とよく言われていますが、地理的に見ると東アジアや日本国内の近隣各地域を結ぶ交流の結節点にあたっており、豊かな自然に恵まれた島嶼部、中山間地域、一方ものづくり産業が集積する沿岸部に加え、多様な文化と世界的な観光資源を有するなど、将来の発展に向けた多くのポテンシャルを持つ地域です。折しも、地方創生が我が国の最重要課題の一つとして位置づけられ、平成 27 年度中には各自治体単位で地方創生の総合戦略を策定されることとなっている中、中国地域全域の広域地方計画をとりまとめることは非常に有意義だと考えています。自治体、地域間を有機的につないで中国地域全体に目配りしていく役割を果たしつつ、各地域の計画を後押ししていくことも大事ではないかと考えています。中国地域の自立的、持続的な発展を目指して、協議会の皆様のご協力を賜りながら、会長の大役を務めさせていただきたいと思っております。よろしくご協力をお願いいたします。

### (2) 中国圏広域地方計画の改定について

事務局より中国圏広域地方計画の改定についての資料説明

国土交通本省より全国計画の中間とりまとめについての資料説明

事務局より意見聴取結果の概要についての資料説明

(質問・意見なし)

### (3) 新たな中国圏広域地方計画骨子(案)について

事務局より新たな中国圏広域地方計画骨子(案)についての資料説明

#### 骨子(案)についての意見交換

#### (島根県知事 溝口 善兵衛)

今日ご紹介いただいた骨子は、有識者の声を聞いたり、経済界の意見聴取、市町村長へのアンケートなどをされ、また骨子を作る過程で各県等にも色々意見を聞いていただき、これから最終的な計画を作るための良いベースができているように思う。これを基礎に良い計画をとりまとめいただきたい。市町村長のアンケートの中で、重点を置くべきこと、新たに盛り込むべきことに

ついて、道路ネットワークの整備を上げたところが大変多い。やはり道路の整備、特に高規格道路の整備が地域の振興にとって大変大事だということが示されていると思う。島根県においては3月22日に尾道松江線が全線開通し、日本海から瀬戸内海、太平洋を結ぶ大きな基幹ネットができる。これを大いに活用して地域振興をやらなければいけないと思う。山陰道についてはまだ若干遅れており、いくつかの箇所の整備も今年完了しているが、整備率は50%をちょっと超えているぐらいのところであり、計画の中でも引き続き整備を進めるようなことにぜひとも触れていただきたい。骨子の22ページに、中小地方都市の振興ということがある。島根県では海岸沿いに人口4~5万人ぐらいの都市がいくつか並んでおり、その都市が東京都で言えば23区より大きいぐらいの面積を持って、一つの中核的な拠点となっており、医療や介護などにとっては中小都市であっても拠点的な役割を果たすので、そういう面でも配慮を願いたい。

#### (中国地方整備局・事務局)

また色々この考え方をベースに良い計画になるよう作っていききたい。山陰道の方はご指摘の通りで、だいたい横断系の高規格が仕上がってきたので、高規格という面ではこれから山陰道は非常に大事な路線だと思う。それからおそらく中小都市の話は、小さな拠点からいきなり都市連合に飛んでいるので、その間はどうかというご指摘だと理解している。この辺はまた色々検討していきたい。

#### (松江市長 松浦 正敏)

中国圏広域地方計画を作る場合は、広島をいかに発展させていくかということを中心に置かなければいけないと思う。他のブロックとの兼ね合いもあるので、そういったことをきちっとやっていく必要があるが、それと同時に圏内のネットワークで圏域全体を支えていくということが大事だと思う。そのために我々は今、中海・宍道湖・大山圏域という圏域の中でポテンシャルを活かして色々がんばろうとしている。その要は、一つは尾道松江線という道路。これは無料区間もかなりあり、輸送コストとしてもかなり優位性があると思う。もう一つは境港。先般境港についてはターミナルの整備ということで取り上げていただくことになり、大変嬉しく思っているわけだが、山陽側から山陰側への色々なものの輸送と、日本海航路を使つての海外への展開、そういったことを我々としても考えていこうとしている。中海・大山圏域といっても、法的に一つの制度としてまとまっているわけではないので、どうしても首長さんたちの意識を統一してそういう方向に持っていかなければいけないわけだが、例えば尾道松江線を使うことによる優位性、境港を使つての海外展開の優位性、こういったことについて国の方では色々なデータを持っておられると思うので、そういったものをこの中にきちんと落としさせていただいて、我々もこの圏域で頑張るということで結束が固まればと思うので、そのあたりをお願いしたい。もう一つは、都市計画制度、いわゆる線引きだが、今、曲がり角に来ているのではないかと思っている。そういった中で今、拠点の連携という考え方が出てきている。線引き制度と拠点あるいはネットワークとの整合性については、ぜひきちんと整理していただきたい。

#### (山口県知事 村岡 嗣政)

基幹交通の整備によるネットワークの強化について。高規格幹線道路網は、中国圏の発展のた

めに不可欠な社会基盤であると思っている。ミッシングリンクが残っているということは、産業面、安心安全の確保、観光面など様々な点で地域の経済の活性化に大変大きなハンディであろうと思っている。早期にこれを解消すべきであろうと思う。山陰道は山口県内ではまだ8割が未着手。着手の見込みが立っていない状況だが、この未事業化区間で、特に最近、自然災害が頻発している。住民の生活や経済活動に大変大きな打撃があった。益田～萩間において地域を縦断する唯一の幹線道路である191号線、これは一昨年7月にも大雨で9日間通行止めになった。高規格幹線道路網の整備は「いのちの道」という認識を持っているので、ミッシングリンクの解消はしっかりと打ち出していきたいと思う。それからもう一つ、岩国大竹道路、地域間を連結する地域高規格道路について、これも中国圏の産業を支える大変重要な基盤であり、観光面も含めて広域的な、まさに連携、交流の機能の強化を図るものなので、この整備促進もぜひ記載していただきたいと思う。交通網の整備と、もう一つ産業の強化について言うと、港湾の関係も大変重要だと思う。山口県をはじめ、いろいろと優れた港湾があるが、企業の国際競争力に直結する産業基盤だと思っているので、この機能強化をしっかりとしていく必要がある。特に大型の船舶を使って、一括大量輸送で資源等を安定的、安価に輸送するというのが、瀬戸内全体の産業力の強化につながっていくし、国全体の産業力の強化にもつながると思う。山口県の中では徳山下松港と宇部港が国際バルク戦略港湾の選定港になっており、この中で今、育成プログラムに沿って着実に取組を進めている。また下関港の方は、日本海側の拠点港として物流の国際都市のターミナルの整備などが進められている。「国際物流機能の強化」のプロジェクトの中で、産業全体の底上げにつながるという観点から、ぜひ国際バルク戦略港湾等の整備をきちんと位置づけていただければと思っている。もう一つ産業の強化の関係で、最近特に水素の関係が新しいエネルギーとして注目されているが、瀬戸内コンビナートで副生水素を多量に生成している。山口県は全国の水素の1割をコンビナートで生成している。特に大量でもあり高純度でもある。これをぜひ活かしたいと思っている。山口県周南市では中・四国、九州地方で初となる液化水素の製造工場が平成25年6月に操業開始している。そして今年の春には液化水素ステーションの運用が開始される予定。県としても水素関係、需要の喚起策など、様々な研究開発の支援をする予算を新年度に盛り込んでいる。水素の利活用による産業、地域づくり、あるいは水素サプライチェーンの構築に向けた取組、こういったところへの支援を我々としてもしっかりとやっていきたいと思っているが、この水素関係の産業はこれから大変期待できると思っている。これも強く打ち出していきたい。最後に中山間地域の関係でもう一点。本県でも県の7割が中山間地域ということで、いずれも人口の減少、高齢化が大変厳しい状況にあり、生活の維持、あるいは交通手段の確保など、日常生活をする上で色々な支障が出てきている。これは中国地方全体の課題だと思うし、しっかりした対処が必要だと思う。山口県の方でも、今、旧小学校区等の広域的な範囲で複数の集落、基幹集落を中心として複数の集落でネットワークを作っていく、「やまぐち元気生活圏」というものを進めようとしている。これは日常生活に必要なサービスなどを拠点化・ネットワーク化するというのと、近隣の中心都市とも連携して産業の振興とか定住の促進を図っていくというもの。こういった取組も進めているので、ぜひ参考にしてもらいながら、中山間地域の持続可能な活力のある地域、そういったことをしていくための「小さな拠点」の形成について、しっかりと位置づけしていただきたいと思うし、各自治体の取組をしっかりと、国の取組とも一体となって、特に中山間地域、厳しい地域が多いこの中国地方において、取組が成果を上げられるよ

うに、ぜひ位置づけしていただきたいと思っている。

(広島県知事 湯崎 英彦)

現在国の方でまち・ひと・しごとという形で、地方創生の総合戦略の策定が進められている。広域地方計画のベースになる新たな国土形成計画の中間とりまとめと連動していて、東京一極集中の是正ということがしっかり位置づけられているとされていて、それは我々としても大変心強いと思っている。その観点から、実際に東京一極集中是正をいかに実現するのかということが本当に重要だと思っている。一つは中国地域におけるミッシングリンクの解消。これは我々広島県としてもぜひ早急に進めていただきたいと考えている。高速道路は発展のために必要ということもあるが、それ以前にベースとして、最低限必要な機能としてあると思う。物流等を考えても、高速道路なしには考えられない。まだ具体的に事業化が進んでいないところは、非常に大きな課題だと思っている。それからもう一つ、産業面で15ページに、中山間における循環型の経済と、沿岸部あるいは産業集積地における国際競争力をにらんだ産業集積の形成、これは私もこういう絵姿で進むべき方向だと思っている。それを考えたときに重要なことが、沿岸部の港湾の整備、これは引き続きお願いしたい。福山港の方でもバルクの指定をいただいているが、なかなか具体的な進展が少ない。バルク港湾の指定は中国地方の中にもいくつかあると思うが、ぜひこの計画の中でもしっかり位置づけて進めていただきたい。もう一点、この中で触れられていないのが空港の機能。特に今後観光、あるいは東京一極集中是正という時に東京圏からの本社機能やR&D機能の移転ということが謳われており、それを進めていく上では空港の機能、特に海外との航路を含めた空港機能の強化が非常に重要だと思っている。広島空港も今、エプロンであるとか将来的には空港ビル自体も路線が増えると制約条件になると思う。離着陸の数は問題ないと思うが、そういったハードの部分の制約がボトルネックになりかねない。LCCを含めた空路誘致ということも含めて、空港機能の強化ということもぜひ位置づけていただきたい。それからもう一点、中国地方の政令指定都市は広島市と岡山市があるが、まさに中国地方において中核となる都市、特に広島と岡山の魅力の強化というのも非常に重要だと思う。例えば東京圏とか近畿圏と比べてまだまだ土地利用の高度化が進んでいない側面があると感じている。これはもともとの経済的な側面であるとか、都市の発展上の経緯的なものもあるが、いずれにしても都心部の再開発的な部分をもっとしっかり行えるようなことを考えていかなければいけない。仕組み的なものも含めて一緒にお考えいただけるとありがたい。それからもう一点だけ、広島も多くの中山間地域を抱えている。どこでも住めるというのが良いところでもあり、難しいところでもある。計画の中でも少し触れられているが、空家等の既存の資産をいかに活用していくかということも非常に重要になってくる。一つは小さな拠点ということで、新たな施設整備を求めていくということも重要な方向だと思うが、現実には例えば今進んでいる、若者の田園回帰といったような場合に、必ずしもそういう拠点到りかえたいとは思っていない方も結構おられて、あえて田舎に住むという動きもある。それは将来にわたって非効率だからそんなところには住まないでくれというのも一つの方向かもしれないが、実際にはそういうところに好んで住む人もいて、それが若者で、これから数十年にわたって定着してくれるという期待もあるので、そういうところも配慮しなければいけない。そのためにインフラ整備をしてくれということではないが、それを忘れないということと、それに必要な空き家等の活用策の円滑化が必要だと思っている。

**(広島市長 松井 一實)**

基本戦略の1、3、6に関連するが、人口減少に歯止めをかけることを目標に、産・学・金・労などで構成する推進組織を活用し、地方版の総合戦略を策定することが重要である。広島市では、国の地方創生の提唱に先駆け、昨年6月、経済団体や大学の代表者で構成する広島の拠点性強化に向けた懇話会を立ち上げ、連携中枢都市圏制度も活用しながら取り組んでいる。具体的には、西は山口県柳井市から東は三原市までの近隣の16市町と一緒に、人口200万人を超える都市圏を目指しており、この中国圏広域地方計画にも後押ししてもらいながら、より加速させていきたい。こうした観点から、基本戦略1の「都市間の多様な連携の推進」や基本戦略3の「中山間地域等における人口減対策」の中で、本市のような取組やその他効果的な取組を提示していただきたい。それから、基本戦略6の「将来の発展を担う人づくり」に関連して、持続可能なまちになるためには若者が活躍できる社会でなければならないと思っている。そのためには、地方の大学とか地方自治体が連携し、若者を地域に根付かせる必要がある。幸い広島県内では広島修道大学や広島大学が地（知）の拠点整備事業に取り組んでおり、こうした取組が地域の産業を担う地元の企業に就職する学生が増えるような仕掛けになればと思っている。こうした取組を始め若者を地域に根付かせる方策について、今後基本戦略やプロジェクトの内容を検討していく過程で、加味していただきたい。

**(三次市長 増田 和俊)**

尾道松江線が間もなく開通するという中で、拠点性が高まってくる、そういう意味では中山間地域であろうと高速道を中心とした道路のネットワーク化が本当に大切だと身にしみて感じている。企業誘致の方も、色々と明るい兆しが見えてくるということで、そういった面での道路のネットワーク化、そしてもう一つは、いわゆる中山間地域においても、やはり拠点性のある展開という戦略が必要だと思っている。一つの自治体一つの地域の拠点性と同時に、県境を越えた中での拠点性というものが必要だと思っている。2点目は、道路のネットワーク化と同時にもう一つ苦慮しているのは、交通のネットワーク化。若者が住むということになれば、教育にもつながってくる。子どもの登下校を含めて足の確保ということに、今、苦慮している。ぜひ道路とあわせて交通のネットワーク化の重要性を述べさせていただきたい。また中山間地域は人口減少と少子高齢化の最たる地域として今トライしている。あまりネガティブに捉えず、高齢化においてはいかに元気な高齢者を長くその地域に住んでもらうか、そうした元気健康という面での展開も、今、私どもは取り組んでいる。ポジティブな展開も必要ではないかと思っている。

**(鳥取県副知事 林 昭男)**

まず、ミッシングリンクの解消というものはぜひ進めていただきたいと思っている。それに加えて、中国地域の中にそれぞれ圏域がある。拠点がある。その間を結ぶ広域幹線道路なども整備を進めていただき、この中国地域が面的につながっているようなネットワークというものを形成できるようにしていただきたい。そういったことを盛り込んでいただければと思う。また、交流というのも大きなテーマになっている。その中で先ほど来もお話があった港。今回境港にも貨客船のターミナルのお話をいただいた。その利用の方法として、やはり外貿と内貿をつなぐ、あ

るいは海陸をつなぐ、そうしたプラットフォーム的な考え方をぜひ取り入れていきたい。そうしたことも取り組んでいただければと思う。空港については定期便がなくてもチャーター便が飛んでくる時に、スポット数が不足するということが生じている。このあたりについてもご検討いただければと思う。また産業については、実は昨年中国地方でも産業競争力協議会を作ったいただき、中国地方の地域戦略ということで産業の中にもものづくりというのがあるし、農業を成長産業として位置づけていこうという考えもある。観光についても重要なもの。それから伝統産業を活かすというような話があった。この競争力協議会の提案についても再度点検していただけるとありがたい。中国圏の強みとして、山あり海あり、里山ありということがある。そうしたことを活かして、子育て環境の良さ、あるいは生活スタイルの提案、それから観光面ではスポーツツーリズムやエコツーリズム、そういう暮らし方の提案をこの中に入れていただけると大変ありがたい。

#### (鏡野町長 山崎 親男)

最近の地域を取り巻く影響は非常に大きい。特に私の町は中山間の最たるところ。山林の占有面積が8割で、それに加えて平成17年に合併した町。最近、多額の財政を投じて光ファイバーを全戸に配線した。平成16年、平成10年の災害によって交通機関が寸断されるということがあったが、今年度完成した光ファイバーは有線なので、それが寸断されると安否確認、あるいは食料の供給等が不完全になる。そういう面では衛星を駆使していただき、国の方から補完するということが必要ではないかと思う。それと中山間には医師がなかなか回ってこない。中山間の医師不足ということもこの中に大きなテーマとして上げていただきたい。

#### (中国地方整備局・事務局)

色々ご意見をいただいた。かいつまんで状況を申し上げる。一つは高速道路を始めとする道路ネットワーク、それから港湾の話があった。誠に遅れているというのはその通りなのでがんばっていくが、これまでとかくB/Cが幅を利かせていたので、こういった国土計画、広域地方計画の中できちんと位置づけることによって別の側面からの推進に役立てていきたいと思っている。また空港の話があった。その部分は確かに弱いので、検討させていただきたい。その他の施策も産業面では水素関係、人材面では大学との連携など、色々なご提案、ご意見をいただいたので、また検討させていただきたいと思う。おそらくこれから地方創生の戦略を各地域で立てる、あるいは国土強靱化の検討をされるという中で、各地で色々な事例なり方向性を考えられると思うので、また教えていただきながら広域地方計画の肉付けをしていきたい。

#### (国土交通本省)

大変貴重なご意見を賜った。実はこの広域地方計画協議会は先月から九州を皮切りに始まっており、来月に入ると全国で開かれていく。いずれにしても国土を形成しているのは各地方であり、それぞれで出たご意見を踏まえながら全国計画の中でも整理させていただきたい。本日はありがとうございました。

#### (山下会長)

たくさんのご意見をいただき、充実した協議会になった。新たな広域地方計画の骨子について

は本日いただいた意見を反映し、とりまとめていきたい。

#### (4) その他

##### 事務局

本日皆様からいただいた意見をもとに肉付けを行い、夏ごろに第4回協議会を開催する予定にしている。

#### 3. 閉会

##### 事務局

これをもって第3回中国圏広域地方計画協議会を閉会したいと存じます。まことにありがとうございました。

以上